

学 校 名	多摩市立大松台小学校
コーディネーター数	1人
ボランティア数	延べ125人(平成30年12月末まで)

活動の概要

多摩市立大松台小学校は、教育連携コーディネーターと学校が連携し、地域の人材を活用した多彩な取り組みを実施している。主な取り組みとしては、地域人材を学習支援員として活用する地域未来塾「放課後プラス」(3～6年生)や地域を知るための学習活動「まちたんけん」(2年生)、近隣の鶴牧西公園の田んぼを利用した学習(5年生)や、地域の高齢者の指導による「昔遊び」(1年生)の体験などである。また、からきだの道や一本杉公園などの地域の自然豊かな公園を利用し、カブトムシの幼虫を飼育し、育った成虫を地域に帰す活動(3年生)に地域の方と児童がともに取り組んでいる。

コーディネーターの役割

教育連携コーディネーターは、学校と連携、調整のうえ、上記の学校教育活動の支援を行っている。具体的には、「放課後プラス」の学習支援員への声かけや連絡調整、「まちたんけん」にあたって、見学する近隣施設との調整、田んぼの学習・カブトムシ飼育の場所の確保や、関係部署との連絡調整を行っている。また、上記事業や昔遊びの実施において、広く地域の方に声をかけ、ボランティアの人材を募っている。

活動上の工夫や配慮等

学校とは、校長・副校長などの管理職や、事業を実施する学年の担任等と必要に応じて打合せを行っている。打合せの結果を元に見学先やボランティアとの調整を進め、授業の実施に向けて支援を行っている。地域のコミュニティセンターや福祉センター、防犯協会などの様々な団体・施設と関わりがあることから、そのネットワークを活かして、広く地域の方に声をかけ、「自分たちにできること、わかること」をつなげていく役割をし、学校を支援するボランティアの輪を広げている。

活動の成果や感想 (実践を通じた児童・生徒、地域の活動者、学校等の声や反応など)

校長・副校長との話し合いの中で子供たちの為になること、地域の協力者と出来ることをしている。活動を通じて、子供たちと接する機会が増えた。地域未来塾「放課後プラス」に来ている子供たちには「オジサンは君達の応援団だよ!」の姿勢で接している。この姿勢が「親ではない」、「先生でもない」、「接しやすい理解者」として甘えて来る児童や友だち感覚で接してくる児童が何人もいる。今後も、地域で子供たちの成長を見守りながら、地域でできる支援を続けていきたい。



《放課後プラス》



《田んぼの学習》



《カブトムシ飼育》